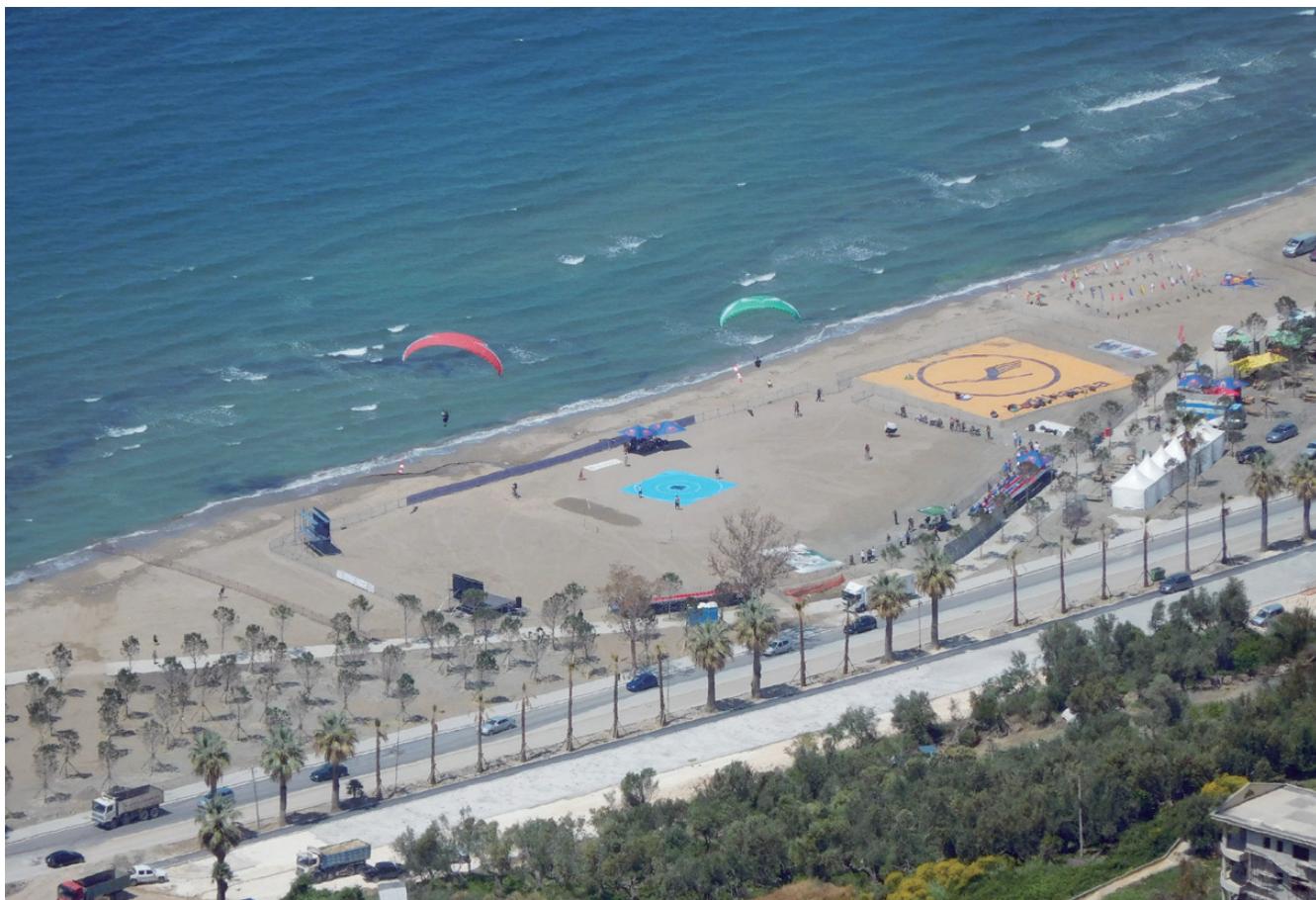


JHF REPORT



第9回パラグライディングアクュラシ世界選手権より。P13からの報告をご覧ください。

2017年通常総会を開催しました

6月13日（火）、東京都北区の『北とぴあ』第二研修室において、全国47正会員（都道府県連盟）の参加（委任状3会員、議決権行使4会員を含む）を得て、2017年JHF通常総会を開催しました。

議題は以下のとおりです。

- 報告事項1：2016年度事業報告
- 報告事項2：2016年度決算報告・監査報告
- 決議事項1：貸借対照表及び損益計算

書（正味財産増減計算書）の承認

報告事項3：2017年度事業計画

報告事項4：2017年度収支予算

決議事項2：JHF役員の選任

報告事項の質疑及び決議1のほか、決議事項2の開票時間などに、フライヤー人口の回復、事故防止、各都道府県でのハンググライディング、パラグライディングの現状と課題について活発な意見交換が行われました。

また、学生連盟代表から新入生勧誘

活動、入会数の維持対策、遠征ツアー計画など社会人になっても継続できる準備について貴重な報告がありました。



昨年と同会場での開催となった2017年通常総会。

JHFフライヤー宣言

1. 自分の意志と責任でフライトします。
2. 自己の健康管理を行い、健全なフライトをします。
3. 社会のルールを守り、第三者に迷惑をかけません。
4. 自然を大切にします。



JHFレポートはスポーツ振興くじ助成金を受けて発行しています

新理事・監事が選任されました

6月13日（火）の2017年通常総会において、JHF役員の選任を行いました（決議事項2）。

理事立候補者10名・監事立候補者1名が、それぞれ立候補の意思表明を行い、正会員による投票の結果、JHF定款が定める理事最大数の9名と監事1名が選任されました。また、総会後に新役員による理事会を開催、代表理事（会長・副会長）を議決しました。

新役員の任期は2019年通常総会開催日まで。この2年間に理事・監事としてどのような活動をしていくのか、それぞれの抱負を聞きました。



理事 会長
内田孝也（東京都）

総会では理事最大数の9名が選任され、総会後の理事会では定款の定める代表理事最大数の3名が着任。私は会長を続けることとなりました。任期中に還暦を迎えることもあり、気を引き締めて任に当たりたいと思います。

JHFの理事は法的に全員「執行理事」で、単なる「理事」は存在しません。これは執行部が9人で運営されるということです。公益社団法人が手掛けるべき問題、ハング・パラの将来を保証できる施策に、全員の総力で取り組みます。財政上では基金を事業費に充當しても猶予期間は3年しかなく、百年の計を立てるべく、限られたリソースをフル活用します。



理事 副会長
安田英二郎（神奈川県）

理事をしてきた8年間、ホームページの刷新などの努力をしてきましたが普及のために目立つ効果はありませんでした。これまでのやり方では不充分なので新しいことに取り組みます。

マスコミ対策が最も大きな効果が期待できるので、これからはマスコミに直接働きかけ、記者を通じた宣伝ルートを作り、行事をするときも必ずマスコミ対応を準備するようにしていきたい。まず、JHFがマスコミ対応に取り

組み、全国の正会員、スクール、各教員にもマスコミ対応策を広めていきたいと思います。

普及のためにはJHFが変わる必要があります。



理事 副会長
小林秀彰（福岡県）

教員・スクール事業委員会と制度委員会に20年以上在籍してJHFをサポートしてきたつもりですが、いつのまにか63歳になっていました。

今後は理事として、理事会、委員会の活性化、また後継者の育成を行うことが年寄りの役割だと思って立候補し、選任していただきました。

自宅は福岡なので頻繁にJHFに通うことはできませんが、テレビ会議、メール会議等の便利な手段があるので地方の理事でも活動の支障にはならないので助かります。

委員会で培ってきた経験、知識を、組織の活性化、後進の方々の育成に役立てるよう頑張ります。また、地方の意見を代弁することも私の重要な仕事だと認識しています。



理事
芦川雄一郎（東京都）

理事3期目となりました。

JHFはいよいよ預金を取り崩す状態となり、業務の集中と選択を余儀なくされています。寛容な認識が狭くなる現状で、如何に自由に飛べる喜びを将来に継続できるか、今期来期が正念場になると思います。微力ながら危機感を持って取り組んでいきます。



理事
市川 孝（神奈川県）

JHFは、事故防止への安全対策、フライヤー減少による財政問題など多くの課題に対して、新メンバーの理事を迎えて積極的に取り組んでいきます。

一方で公益社団法人という団体の運

営には、主務官庁との連絡・調整が欠かせませんので、従来と同様、こうした面での業務を的確に行っていきます。

なお、JHFの前身となる日本ハンググライディング委員会が発足して来年で40年となります、先人の皆さまが切り開いてきたハング・パラの活動を記録にまとめる作業も必要となります。わが国唯一の統括団体として、次の世代のためにもハング・パラの歴史を編纂する事業は重要となりますので、会員の皆さまの協力をいただきながら進めています。



理事
大澤 豊（茨城県）

7期目も理事の職責を全うするため、自己研鑽に努めます。

今まで、やりたい事をやるというより、今やるべき事を一つ一つ、行ってまいりました。理想ややりたい事はあります、今ある課題に肅々と取り組むことこそ私の役割と思い、今期も山積みになっている課題と向き合っています。

今期は4名の新役員が加わりJHFに新たな風が吹き込むでしょう。今後、フライヤー会員の減少を食い止め増加に持っていくために、従来通りではなく新たな挑戦も必要になると考えます。新しい役員と一緒に取り組み、守るべき基礎を守るために、1期目と変わらぬ情熱を持ち続けてまいります。

また、ライフワークになっているハング競技の普及・振興、レベルアップを今後も若い選手たちと一緒に進みたいと思います。



理事
金井 誠（山形県）

フライヤー会員を増やし、飛び続けられる環境を守るには、何よりも事故を減らすことが重要だと思います。フライヤー会員、教員・助教員の皆さんへの実際の安全に役立つ情報提供、講習会などを通じて、技術・知識のブラッシュアップ、安全意識を高めてゆくこ

とに取り組んでゆきたいと思います。次に社会への貢献、アピールを積極的に行いスカイスポーツのイメージアップに取り組んでゆきたいと思います。体育協会、観光協会での活動やスカイフェスティバルの開催、障害者フライトなど山形県内で取り組んできた事を活かして少しでも社会貢献やイメージアップに役立つように頑張りたいと思います。



**理事
殿塚裕紀（栃木県）**

フライヤー登録者数の減少が懸念されていますが、スキーやゴルフ、スキュー・バーディングなど他のレジャースポーツでも同様に愛好者数は減少しています。また高齢化が進んでおり、これは日本の社会構造からきていると考えられ、いかんともし難いものがあります。

しかし、諦めるわけにはいきません。

ハング・パラを続けやすいエリア環境を作る。新しく始めたい方への窓口となる。これはどちらも主に教員が担っていることです。私はJHFが教員を支援することにより、愛好者数の安定を図るべきと考えています。微力ではございますが、JHF並びにハング・パラ業界のために尽力していく所存です。



**理事
増田憲治（愛知県）**

初めて理事に選任されました。普段は、愛知県の自動車部品会社でセラリーマンをしています。学生の時に足尾でハングを習い始めてから22年。現在は、主にハングで飛んでいます（パラに取り組んでいたこともあります）。

JHFの活動が時代の流れについていけないので、変えるべきところは変えていく必要があると考えています。2018年度の活動計画に向けて、次

回の理事会から、新しい取り組みを提案していきます。取り組むと決まったものについては、担当者を決めて、具体的な日程がある計画に落とし込みます。その進捗を正会員とフライヤー会員で共有します。



**監事
岩村浩秀（東京都）**

会計士の仕事をするようになりハンググライダーをやめてから25年になります。監事として5年目、JHFを取り巻く状況については多少理解できるようになりましたが、何せ現役でないのでは肌で感じることはできません。

フライヤーの高齢化による事故の増加、スクール保険の加入問題等々、なかなか対応の難しい問題をJHFは抱えています。監事の立場では、JHF事業に直接かかわることは難しいのですが、外部専門家として精一杯協力していく所存です。

JHFの2016年度事業

「公益社団法人日本ハング・パラグライディング連盟2016年度事業報告」より

2016年4月1日から2017年3月31日まで、公益社団法人として6年目の1年間にJHFが取り組んできた事業を報告します。

I 概要

会員数が大きく減少することはありませんでしたが、自然減を補うことができずフライヤー数は8000人を割り込み始めました。15年前には20代から40代までのフライヤーが全体の約68%を占めていましたが、現在その年齢層は約34%と構成比が半減しています。フライヤーの絶対数を増やすためにはこの若い年齢層の増加が不可欠です。日本学生フライヤー連盟の新入生勧誘活動により学生の入門者が毎年一定数いるのですが社会人になるとほとんどがやめてしまう実態を少しでも是正し、社会人がパラやハングに興味を持つように露出を増やすことを進めていきます。

なお、安全性向上などを目的として、教員検定員研修検定会を開催したほ

か、MPG（モーターパラグライダー）パイロット安全セミナーを全国で10回開催しました。

1. 収支の現状

2016年度は、教員検定員の研修検定会を実施、教本準備のための費用も拠出したため、ここ数年で一番大きな単年度赤字の計上となりました。次期繰越金はわずかとなり、資金をかけて活動をしていくためには、取り崩し可能な基金からの資金手当で、フライヤー会員数の目に見える増加が必要になります。十数年前の財政危機は、歳入歳出のバランスを期中に見誤ったためでした。経理財務はしっかりと管理しています。足元では会員数が再び減少して赤字の一因となり、今後公益目的事業基金の取り崩しが避けられないと予測します。この基金は、公益社団化の時に遊休財産とみなされないために基金化しておいたものであり、事業資金に戻すことに問題はありません。しかし、これを使いつぶしてしまった暁

には、一人あたりの負担増加、JHFの活動の縮小が必要となります。愛好者数の減少への歯止め、増加への転換が望されます。（収入・支出の割合は次ページの円グラフをご覧ください。）

2. 組織運営等

- 1) 教員検定員研修検定会を開催、教員検定員候補者23名が受講
- 2) MPGパイロット安全セミナーを10ヵ所で開催
- 3) 教員検定員による教員助教員更新講習会を13ヵ所で開催、99名が受講
- 4) レスキュー・パラシュート・リパック更新講習会を11ヵ所で開催、39名が受講
- 5) 教員検定会にて4名を新しくパラグライディング教員に認定
- 6) 第5回JHFフォトコンテストを開催

3. 特記事項

- 1) 第39回鳥人間コンテスト選手権大会を協賛
- 7月30日（土）・31日（日） 滋賀県彦根市松原水泳場周辺

2) FAI世界記録認定

ア) 2016年1月7日の磯本容子氏のハンググライダー（女性）目的地直線距離367.6km（オーストラリア フォーブス～ウォルゲット）認定日：2016年7月13日

イ) 2015年11月2日の平木啓子氏のパラグライダー（女性）目的地直線距離記録301km（ブラジル キシャダ～カステロ・デ・ピアウイ）認定日：2016年7月25日

3) 平成28年度一般財団法人日本航空協会「空の日」航空関係者表彰式が開催（9月20日）され、FAI世界記録公認の平木啓子氏、磯本容子氏に航空スポーツ賞が授与された。

4) 一般財団法人日本航空協会の航空スポーツ教室「スカイ・キッズ・プログラム」に、愛知県フライヤー連盟（7月18日）、東京都ハング・パラグライディング連盟（8月6日・7日）が協力

5) 後援イベント／体験会・デモフライト

●10月15日（土）千葉県幕張海浜公園

●10月25日（日）埼玉県熊谷市妻沼滑空場

●11月6日（日）東京臨海広域防災公園（そなエリア）ちびっこパーク
●11月22日（火）福島スカイパーク・イベント実証テスト

6) 第22回スカイスポーツシンポジウムを協賛

12月10日（土）都立産業技術高専（荒川キャンパス）

2016年6月通常総会

開催通知：4月4日（月）

開催日：6月21日（火）11:00～17:00
開催場所：北とぴあ 7階・第二研修室（東京都北区王子）

議案：

報告事項1：2015年度事業報告について

報告事項2：2015年度決算報告について

決議事項1：貸借対照表及び損益計算書の承認について

報告事項3：2016年度事業計画について

報告事項4：2016年度収支予算について

決議事項2：JHF役員選任規約の改訂について

2) 理事会

第1回理事会

5月19日 出席：理事7、監事1

第2回理事会

7月7日 出席：理事7、監事1

第3回理事会

II 事項別状況

1. 組織

1) 会員数

正会員：47

フライヤー会員：7,832名（2017年3月末有効登録数）

賛助会員：12

2) 役員構成（2017年3月末現在）

理事：7名（内会長1名、副会長1名）、

監事：1名

2. 会議等の開催

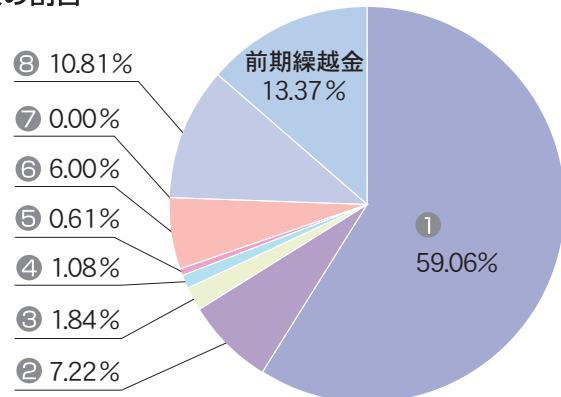
1) 総会

2016年度決算報告より

収入（単位:円）

①会費等	37,456,104
②技能証の発行に基づく収入	4,580,000
③競技に関する収入	1,169,500
④教本等の頒布に伴う収入	686,500
⑤検定会参加費	390,000
⑥補助金	3,802,130
⑦機体登録費	0
⑧その他	6,855,148
前期繰越金	8,476,109
合 計	63,415,491

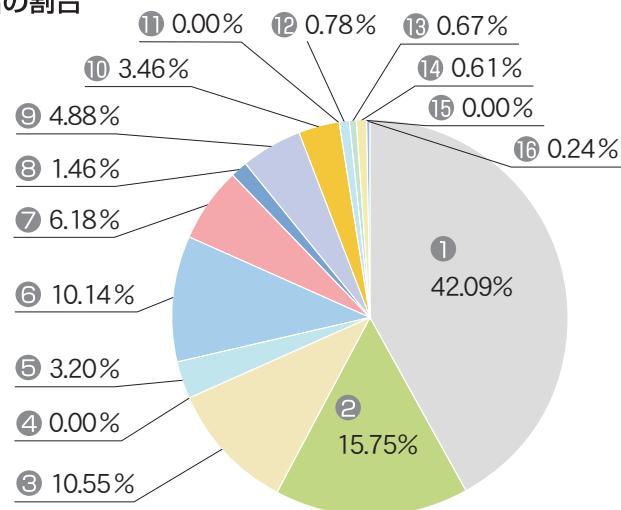
収入の割合



支出（単位:円）

①会員サービスのために	25,609,491
②JHFの維持運営のために	9,584,415
③都道府県連盟の補助のために	6,417,788
④公益事業の推進のために	0
⑤世界選手権、アジア選手権や検定会のための積立	1,950,000
⑥広報・普及活動のために	6,168,983
⑦日本選手権や国体デモスロのため	3,757,661
⑧競技のために	885,980
⑨よりよい教習環境のために	2,966,330
⑩委員会活動のために	2,108,091
⑪補助動力のために	0
⑫学生の補助のために	471,700
⑬事故調査や安全のために	407,210
⑭海外との交流のために	371,808
⑮制度のために	0
⑯総会のために	146,820
合 計	60,846,277

支出の割合



10月20日 出席：理事7、監事1
 第4回理事会

3月10日 出席：理事7、監事1
 文書理事会

4月1日、4月6日、4月8日、5月23日、7月22日、8月22日、11月2日、11月14日、11月18日、1月18日、2月7日、2月16日、2月22日、3月21日、3月23日

3) 委員会

■ハンググライディング競技委員会
 競技会開催時に実施

■パラグライディング競技委員会
 競技会開催時に実施

■補助動力委員会
 4月18日、10月3日、1月30日

■教員・スクール事業委員会
 6月20日、11月7日、1月17日

■安全性委員会
 6月20日、11月21日、1月18日

■制度委員会
 4月13日、1月17日

■ハングパラ振興委員会
 4月26日、11月15日、2月28日

■役員選任実行委員会
 11月29日、2月27日

■委員長理事合同会議
 2月14日
 上記のほか電子メール会議を実施し、経費削減に努めた。

3. 事業の実施状況

- 1) 普及振興活動
- JHFレポートを発行（4月、7月、10月、1月） *独立行政法人日本スポーツ振興センター・スポーツ振興くじ助成を受けて発行しています。
- 都道府県連盟事業費の交付
- 日本学生フライヤー連盟へ助成金交付

2) フライヤー会員登録
 2016年度新規・更新登録数：5,712名
 (2015年度 6,020名)

3) 技能証発行
 HG (ハンググライダー) : 205枚 (2015年度 226枚)
 PG (パラグライダー) : 1,035枚 (2015年度 1,018枚)
 MPG : 35枚 (2015年度 24枚)
 レスキューりパック認定証 : 40枚 (新規3・更新37)

4) 競技会の主催・公認・後援
 HG : 20件 (内FAIカテゴリーI・II : 4件)
 PG : 26件 (内FAIカテゴリーI・II : 2件)
 HG・PG同時開催 : 4件

5) 競技会の開催

■ハンググライディング：
 ・日本選手権
 2016年3月17日～21日 茨城県板敷エリア 参加61名 日本選手権者：大門浩二 女子日本選手権者：磯本容子
 ・クラスV日本選手権 11月3日～6日 茨城県足尾エリア 参加47名 日本選手権者：板垣直樹
 ・ハンググライディングシリーズ（参加人数104名） 1位：大門浩二 女子1位：野尻知里
 ・ハンググライディングXCリーグ 1位 松田隆至 (212.08km)

■パラグライディング：
 ・日本選手権
 11月3日～6日 徳島県吉野川エリア 参加70名 日本選手権者：岩崎拓夫 女子日本選手権者：平木啓子
 ・アキュラシー日本選手権
 10月15日・16日 千葉県九十九里エリア 参加15名 日本選手権者：塚原隆信
 ・ジャパンリーグ（参加人数105名）

オープンクラス1位：廣川靖晃 同クラス女子1位：平木啓子 スポーツクラス1位：田中健 同クラス女子1位：中目みどり
 ・ジャパンリーグ（参加人数26名）
 1位：橋本耕一 女子1位：田村康子
 ・クロスカントリーリーグ (32名 73本)
 1位：多賀純一 最長フライト：中川喜昭 (154.1km)
 ・アキュラシージャパンリーグ（参加人数19名）
 スクラッチクラス1位：岡芳樹 同クラス女子1位：伊藤まり子 ハンディキャップクラス1位：古田岳史 学生クラス：該当者なし チーム1位：スカイ朝霧
 6) スクール・エリア情報の収集及び公開

■スクールサイト登録校 156件 (内新規登録校5件、削除1件)

■エリア情報掲載 177件

7) 海外関係団体活動
 CIVL総会 2017年2月2日～5日
 オーストリア 出席者：岡芳樹（デレゲイト）、北野正浩（教員・スクール事業委員）

8) 世界選手権等へのチーム派遣
 ■第7回FAIハンググライディングクラスV世界選手権
 参加選手：4名（内1名個人参加）
 7月16日～30日 マケドニア共和国

■第3回FAIパラグライディング・アキュラシーアジア選手権
 参加選手：5名 5月27日～6月3日
 カザフスタン

9) その他
 ■機体型式登録：0件
 ■機体情報登録：38件（パラグライダー32件、ハンググライダー6件）

2016年度の委員会活動

2017年総会資料「2016年度委員会活動報告補足」より

JHFの事業の多くを担っているのは委員会です。現在、JHFには八つの常設委員会があり、フライヤー会員のため、連盟のため、そしてハング・パラグライディングのために活動をしています。以下は、2017年通常総会において報告された各委員会の活動内容です。（事業報告と重複する部分あり。）

ハンググライディング競技委員会

委員長：板垣直樹

- 1) ルールブックの改訂
- 2) WEB登録によるエントリーの簡素化
- 3) 委員会ホームページの運営
 大会公認案内、エントリー案内等の更新は随時実施。

- 4) ライブトラックの競技導入により集計の簡略と安全運営の両立。
- 5) 第7回FAIハンググライディングクラスV世界選手権へ選手派遣（マケドニア共和国 Krushevo）7月16日～30日 日本からの4名（内1名は個人参加）を含め約130名参加 6位入賞：板垣直樹、国別3位



世界記録認定の平木氏（左）と磯本氏に航空スポーツ賞。



PGアキュラシーアジア選手権で伊藤選手が女子1位に。



HGクラスV世界選手権で日本チーム3位、メダル獲得。

6) 2016年ハンググライティング・クラスI日本選手権開催（茨城・板敷）
3月17日～21日 61名参加 タスク3本成立 日本選手権者：大門浩二、2位：阿部貢造、3位：板垣直樹、4位：氏家良彦、5位：加藤実、6位：砂間隆司 女子日本選手権者：磯本容子、女子2位：鈴木皓子、女子3位：桜井さやか

7) 2016年クラスV日本選手権開催（茨城・足尾） 11月3日～6日 47名参加 タスク4本成立 日本選手権者：板垣直樹、2位：塙野正光、3位：砂間隆司

8) ハンググライディングシリーズ管理運営 参加人数104名 1位：大門浩二、2位：鈴木博司、3位：田中元気 女子1位：野尻知里、女子2位：鈴木皓子、女子3位：磯本容子

9) ハンググライディングXCリーグ管理運営
1位：松田隆至（212.08km）
10) 各種大会のJHF公認および後援申請に対する審議および承認

パラグライディング競技委員会

委員長：岡 芳樹

1) ルールブックの改訂
2) WEB事務局・ホームページ管理
3) 第3回パラグライディング・アキュラシーアジア選手権へ選手派遣（カザフスタン、タルディコルガン）
5月27日～6月3日 男子4名、女子1名：岡芳樹、古田岳史、小松理樹、鈴木洋史、伊藤まり子 総合1位：タナバット・レアンガイエム（タイ）、2位：ワン・ホン・ジ（中華人民共和国）、3位：ツー・チー・フェン（中華人民共和国）、8位：伊藤、11位：小松、14位：岡、15位：古田、18位：鈴木 女子1位：伊藤（日本）、女子2位：ヌナバット・プチョン（タイ）、女子3位：ダギヨム・リ（大韓民国）
国別1位：中華人民共和国、2位：大

韓民国、3位：タイ、4位：日本

4) Jリーグ、J2リーグ、XCリーグ、AJリーグ管理

・Jリーグ結果（参加人数107名）

オープニングクラス1位：廣川靖晃、2位：上山太郎、3位：岩崎拓夫 同女子1位：平木啓子、2位：山下敦子、3位：中目みどり

スポーツクラス1位：田中健、2位：中目みどり、3位：山下敦子 同女子1位：中目みどり、2位：山下敦子、3位：高田奈緒

・J2リーグ（参加人数26名）

総合1位：橋本耕一、2位：今中正、3位：山田裕一 女子1位：田村康子、2位：橋本泉、3位：富永あゆみ

・XCリーグ（32名、73本）

1位：多賀純一（415.9km）、2位：中川喜昭（414.3km）、3位：二三四藤昭（315.5km）

最長フライト：中川喜昭（154.1km）

・AJリーグ（参加人数19名）

スクランチクラス1位：岡芳樹、2位：塙原隆信、3位：古田岳史 同女子1位：伊藤まり子、2位：山口香代、3位：菊田久美 ハンディキャップクラス1位：古田岳史、2位：塙原隆信、3位：和田浩二 学生クラス該当者なし チーム1位：スカイ朝霧、2位：大台、3位：飛魔人クラブ

5) 2016年度日本選手権開催（徳島県吉野川エリア） 11月3日～6日 タスク2本成立／4日 70人参加 規定により日本選手権として成立。

総合1位：岩崎拓夫、2位：廣川靖晃、3位：上山太郎、4位：吳本圭樹、5位：青木翼、6位：平木啓子 同女子1位：平木啓子、2位：山下敦子、3位：高田奈緒 スポーツクラス1位：高田奈緒、2位：村田好彦、3位：田中健 同女子1位：高田奈緒、2位：中目みどり、3位：高橋美佳

6) 2016年度アキュラシーパラグライディング日本選手権開催（千葉県九十九里エリア） 10月

15日・16日 9ラウンド成立 15人参加 規定により日本選手権として成立。

総合1位：塙原隆信、2位：菊田高司、3位：岡芳樹、4位：松原正幸、5位：伊藤まりこ、6位：古田岳史 同女子1位：伊藤まり子、2位：山口香代 ハンディキャップ1位：松原正幸、2位：菊田高司、3位：塙原隆信

安全性委員会

委員長：伊尾木浩二

- 1) 事故情報の収集と管理
- 2) 事故調査報告
- 3) 機体登録制度の推進
- 4) JHFレポートへ掲載実施
- 4) MPGパイロット安全セミナーの開催（補助動力委員会以外でも県連等で開催）
- 5) 地図ソフト連動のエリアマップの作成
- 6) 小型航空機安全対策説明会参加 東京空港事務所
- 7) 海外情報収集（DHV、PMA、EAPR、DULV）訪問

教員・スクール事業委員会

委員長：山谷武繁

- 1) 教員検定会 PG：4名 HG：0名
- 2) 教員助教員更新講習会 13ヵ所 99名受講
- 3) レスキューパラシュートリパック認定証更新講習会 11ヵ所 39名受講
- 4) レスキューパラシュートリパック認定 40名（新規3名 更新37名）
- 5) PG教本改訂
- 6) HG教本作成
- 7) 教員検定員研修検定会の開催（3月14日～16日 検定員23名）

補助動力委員会

委員長：須藤 彰

- 1) MPGパイロット安全セミナーの



HG日本選手権、クラスI、クラスVとともに茨城県で開催。



PG日本選手権は徳島県吉野川エリアで二度目の開催。



PGアキュラシー日本選手権を千葉県九十九里海岸で。

開催

- ・福島県塙町 5月3日 40名近くの参加者 JPMA・JPA合同（須藤）
- ・佐賀県連と長崎県連の合同セミナーを佐賀県で開催 7月末（橋田）
- ・静岡県御前崎、静波 5月末 JPMAエリアにてセミナー各10名（橋田）
- ・三重県伊勢付近 5月末（橋田）
- ・高知県仁淀川河口付近 5月上旬（橋田）
- ・群馬県連MPG安全セミナー 約10名参加（伊尾木）
- ・高知県四万十川 7月（橋田）
- ・京都府丹後 10名前後参加（橋田）
- ・北海道余市 9月7日 3名程度参加（須藤）
- ・青森県八戸 青森県連主催 9月10日・11日 20名程度参加（須藤）
- 2) 下総自衛隊安全会議への参加（須藤）

3) 会員増加のための取り組み

4) 事故対策への取り組み

事故調査：滋賀県長浜 5月1日（橋田）

5) MPGクレーム情報収集（JHFレポートなどへ掲載）

制度委員会

委員長：小林秀彰

1) JHF公式立会人規程の研究と作成準備

2) FAI技能記章の改定に準じたJHFのFAI技能記章規定改定

3) 新HG教本に沿ったHG技能証規程の改定準備

4) HG教本の全面改訂作業に協力

5) 役員選任実行委員会との連携による役員選任規約の改定

6) スクール、クラブ、エリア調査についての理事会への提言

ハングパラ振興委員会

委員長：井上 潔

1) ハンググライダーのパンフレット（紹介版）作成

最終稿調整中。制作途中の暫定版を1,000部印刷しイベント等で配布している。

2) 現在飛んでいる人が飛び続けられる環境作りの検討

JHFウェブサイト『フライヤーズボイス』を定期的に更新できる体制を検討し運用に入った。

3) 各種イベントへの協力

4) HG教本・PG教本改訂への協力

役員選任実行委員会

委員長：鈴木由路

1) 2017年役員選任に向けての検討

2) 2016年総会において、役員選任規約改訂を上程し総会の承認を受けた

JHFの動き

ハンググライディング世界選手権

日本代表選手が決まりました

8月6日～19日にブラジルで開催されるハンググライディング世界選手権の日本代表選手が決まりました。

大門浩二 田中元気 鈴木博司
砂間隆司 加藤 実 鈴木由路
チームリーダー：北野 正浩

女子世界選手権は参加数が少なく残念ながら中止となり、代表に決まっていた野尻知里さん、鈴木皓子さん、磯本容子さんはオープン参加します。

日本チームを支援するために有志によるHang-Aid 2017も活動中です。

PGアキュラシー日本選手権

8月に池田山で開催

8月25日（金）～27日（日）、岐阜県揖斐郡の池田山フライターエリアで『パラグライディングアキュラシー日本選

手権in池田山』を開催します。

パラグライディング日本選手権

9月に足尾山で開催

9月15日（金）～18日（月／祝）、茨城県石岡市のnasa足尾山フライターエリアで『パラグライディング日本選手権2017 in ASHIO』を開催します。

防げる事故を起こさないため

琵琶湖フライト安全協議会発起

昨年度、琵琶湖でモーター・パラグライダー事故が多発。JHF補助動力委員会で対策を検討してきましたが、「防げるはずの事故を起こさない」ために琵琶湖周辺のスカイスポーツ関係者と協議し『琵琶湖フライト安全協議会』を発起することになりました。

琵琶湖周辺でMPGフライトをする場合は、必ず安全協議会加盟団体に連

絡し、エリアルルールを理解したうえでフライトしてください。単独フライトは禁止です。

●琵琶湖フライト安全協議会加盟団体
フルーツエリア・琵琶湖MPPGクラブ・MKクラフト・スカイテック（水上トーリングのみ）・京都エアースポーツ・北びわこパラモータークラブ
団体代表：MKクラフト 真藤正一

水難事故を繰り返さない！

MPG安全セミナー開催

日本で多く発生する水難事故を防ぐため、JHF補助動力委員会は7月23日（日）に琵琶湖で『モーター・パラグライダー浮力実験安全セミナー』を開催します（参加申込受付は終了）。フリーディスカッションも行う予定。浮力実験の結果やセミナーの報告は、JHFレポート次号に掲載します。

続・何よりも安全に飛ぶということ

安全を第一に楽しく飛びたい。誰もがそう思い、フライトに臨んでいるはずですが、重大事故にストップがかかりません。前号で今年1月から3月までに3件の死亡事故が発生したことをお知らせしましたが、その後、6月末までにさらに5件の死亡事故が起きました。

- 1月 パラグライダー2件
- 3月 ハンググライダー1件
- 4月 モーター・パラグライダー1件
- 5月 パラグライダー1件
- モーター・パラグライダー1件
- 6月 パラグライダー1件
- モーター・パラグライダー1件

亡くなられた8人の方々の無念、ご家族や周りの人たちの悲しみを想像してみてください。もし自分だったらと考えてみてください。

空を飛ぶことに慣れてくると、頭のどこかに「自分は大丈夫だ」という思いが入り込んでくるかもしれません。しかし、動力の有無にかかわらずハンググライディング・パラグライディングは、刻々と変化する自然のなかで楽しむものです。いつでもどのような事態にも完璧に対処するということは不可能でしょう。

自分は人間であること。疲れもすればミスもすること。知識を蓄えても知

らないことはたくさんあること。それを忘れないでください。

フライトはドキドキワクワクするもの。しかし、能力ギリギリによるドキドキは事故と紙一重です。いつでも安全マージンを十二分にとって、何か予想外のことが起きても落ち着いて対処できるよう、余裕を持ってフライトしてください。

今回は、事故撲滅、安全性向上のためにさまざまな活動をしている委員会のメンバーから、フライヤーの皆さん一人ひとりへの呼びかけです。いつまでも楽しく飛び続けるために、熟読をお願いします。

一人ひとりが行動を

教員検定員を認定

教員・スクール事業委員会は、教員や助教員を育成し、楽しく安全なフライト環境を整えるために活動しています。その一環として、今年3月14日から16日まで、茨城県つくばみらい市において教員検定員研修検定会を開催しました。

教員検定員は、文字通り教員を検定するだけでなく、全国各地でハンググライディング、パラグライディングの健全な発展と安全確保、技能レベルの標準化などにつとめるリーダーの役割

JHF教員・スクール事業委員会 委員長 山谷 武繁

を担います。

今回の参加者は、各都道府県連盟の推薦を受けた23名。研修を受けた後、学科試験、5分間スピーチ、実技検定を経て、23名全員が教員検定員として認定されました。今後3年間、教員検定、教員助教員更新講習、リパック認定証検定および更新、事故調査員、そして安全セミナー講師として全国で活動します。

安全セミナーを全国で開催

パイロット安全セミナーは、すでにパイロット証をお持ちの方を対象に、安全にフライトするための技術や知識、最新情報を伝えています。

これまで安全性委員会が主導し、全国各地で開催してきた安全セミナーには、多くの参加をいただきました。今後、より多くのパイロットの方に受講していただけるように、全国13地域でパイロット安全セミナーを開催していきます。

パイロット安全セミナーは、新しい情報を得る機会の少ないパイロットが、より安全にフライトできるよう勉強する機会を提供するために始まりました。現在はパラグライディング、補助動力付きパラグライディングが対象ですが、今後、ハンググライディングに関しても開催を検討しています。自

分の技量を見直す機会にもなるので、ぜひ参加してみてください。(パイロット安全セミナーを担当する教員検定員は左下のとおりです。)

事故発生の現状

2017年もすでに半分を経過しました。重大事故の報告が相次いでおり、6月30日現在で確認されている死亡事故は8件です。

近年の死亡事故の状況を見てみると、2015年13件、2016年6件と、2年間で19件発生しています。年間約10件の死亡事故が発生するということになります。2017年の死亡事故はこのペースを越える勢いです。

事故を減らすには、フライトする全員がもう一度基本に戻って、考え直さなければなりません。悲しい死亡事故が引き起こされる要因は、意外と小さなヒヤリハットなのかもしれません。少しでも事故を減らすための行動をしていきましょう。

報告されない事故

事故が発生した場合、インストラクターに限らず関係フライヤーはJHFに事故報告をすることになっています。JHFではこの事故報告をもとに、事故を未然に防ぐため、事故の傾向や対策を検討しています。

パイロット安全セミナー 各地域担当の教員検定員

- 北海道：田代茂樹
- 東北：金井誠、古川正司
- 北関東：伊尾木浩二、下山進
- 南関東：目黒敏、阿倉聰、中村ヤスヲ
- 東京：板垣直樹、福田武史
- 甲信越北陸：岩橋亘、殿塚裕紀
- 東海：加賀山務、平木啓子
- 関西：片岡義夫
- 中国：片岡義夫、坂本三津也
- 四国：橋田明夫、椋本清治
- 北九州：小林秀彰、角町正彦
- 南九州：西本一弘、小川勝良
- 沖縄：井藤志暢

しかし、近年の事故報告数は、2015年は36件、2016年は24件、2017年は6月30日現在でわずか12件です。2017年に関して言えば、8件の死亡事故の情報に対しては事故報告が少なすぎるよう思います。実際には、報告されない事故が相当数発生していると思われます。

事故報告をしない理由は様々あると思いますが、その理由のほとんどは、パラグライディング・ハンググライディング界の発展にとってマイナスとなるものです。スカイスポーツ愛好者を増やすためには、まず事故を減少させすることが必要です。そのために我々は、起きてしまった事故から学び、同じような事故を起こさないように情報を共有しなければなりません。

事故報告の義務化

残念ながら、死亡事故などの重大事故、もしくはマスコミで取り上げられなければ、JHFに事故報告書を提出しない、という意識が強いのが現状のように見受けられます。

この状況で事故を減らすことができ

るのでしょうか？ 事故対策を講じるにもデータベースがあまりにも不足しています。

進んで事故報告書を提出していただけるよう、委員会としても検討を重ね、繰り返し呼びかけてきましたが、現在も効果が現れていません。

そこで、3月に行われた教員検定員研修検定会において、参加者と意見交換をした結果、事故報告の義務化を決定しました。

[事故報告の義務化の内容]

1. 教員・助教員が関わった事故全般を報告する。
2. 重大事故に限らず、軽症や無傷でも大事故につながる可能性があったと思われるインシデントを報告する。
3. 提出された事故報告書によって得られた情報の詳細（エリア、スクール、個人情報等）は公開しない。

今後、事故報告を積極的に行い、事故を減少させるための運動にぜひご参加ください。

海外の事故対策の例

前述のように、JHFの事故報告数は

2015-2016年の2年間で60件。死亡事故は2年間で19件。会員数約8000人に対して1年平均で死亡事故が約10件ですから、死亡事故発生率は、1会員に対して0.125%という計算になります。

では、DHVを見てみると、事故報告数が2014-2015年の2年間で441件。うち死亡事故が9件発生しています。会員数は日本の約4.4倍の約35000人です。1年平均での死亡事故は4.5件、1会員に対する死亡事故発生率は0.0129%です。ドイツでは重大事故に限らず事故報告が習慣的になされ、事故対策が十分機能している結果、死亡事故率の低さにつながっていると推測されます。

事故が減少した結果、ドイツではフライヤー人口が増加しているそうです。フライヤー人口が日本の4倍以上いる中で、死亡事故は日本の半分しか発生していません。日本は事故対策について意識を変えなければならない危機的状況にあると思います。

将来、次の世代に引き継ぐスカイスポーツ界を恥ずかしいものにしないためにも、今こそえていかなければならぬと感じます。

パラグライディングでの対地高度

JHF安全性委員会 委員 目黒 敏

重大事故が続いている。事故は他人事だと根拠もなく思い込むのは危険です。フライトの基礎を忘れず、常に安全マージンを意識し、余裕を持って楽しみましょう。

これまで、対地高度の判断ミスによると考えられる事故が多く発生しています。そこで、対地高度についての大きなポイントを考えてみます。

安全高度……250m以上

「安全高度」は、その言葉・表現を変えている場合もあるが、各地のエリアルールまたはインストラクターの意識の中で定められている場合が多い（エリアルールで300m以上としているところもある）。

例えば、スパイラルなどの降下（またはそのトレーニング）は、この安全高度の中で行い、それ以下の高度では行わないこと。（リスクの高い降下手段・アクロバット等のトレーニングは300m以上。また、平地・民家の上空

ではなく樹林帯の上空で行うこと。）

危険高度……100m以下

パラグライダーは、環境（地形や樹木、建造物など）の影響による風の変化を受けやすく、トラブルに対して（地面までの到達距離の関係から）時間的にも余裕がない高度を「危険高度」という。この高度の範囲ではリスクが大きい飛行となり、ブレーキコード操作を行えないような高度処理方法は要注意となる。

例1：翼端折り潰しではブレーキコード操作は行えなくなるが、低高度の気流をよく把握したうえで必要に応じて実施することもあるかもしれない。ただ、危険高度であることを忘れてはいけない。

例2：同時進入のリスク。危険高度になれば、通常ランディングすることを常に考え始めるだろう。なのに無暗にソアリングに集中し、気がついたら他機と同時進入になり、お互いが危険

な状況となることも。また、アプローチルールが理解できていないと、一層、他機に対してもハイリスクとなる。

【メモ】

●電線・送電線（高圧線）を飛び越える場合、150m以上の高度を確保すること。また、見えにくい送電線の上を越えるのではなく、電柱・鉄塔（タワー）の上を越えるようにする。

●スキー場のリフト、ロープウェイ等のワイヤー上空を通過するときには、50m以上の高度をとることが望ましい。しかし、その施設、エリアのルールによっては越えてはいけない場合もある。また、もっと高く通過することをルールにしているところもあるため、フライト前にルールを確認し、よく理解したうえで判断すること。

●事故によって送電線の送電を止める、ロープウェイを停止させるなどした場合、その代償は計り知れないことを知るべきである。

安全で楽しいフライトのために

各地で活躍する教員検定員23人〈1〉

この3月、教員検定員の任期満了に伴い、JHF教員検定員研修検定会を開催。研修後、学科試験、5分間スピーチ、実技検定を通過した23人が新教員検定員として活動を開始しました。

それぞれ日本のハング・パラグライディング界をリードする23人の横顔を、これから毎号紹介していきます。



板垣直樹（茨城県）

教員の検定員、とても重大で大変な責任のある仕事です。

飛んでいるだけの自分がこの重要な役目・役割をこなし職責を果たせるかは、正直なところ自信はありません。

とにかく飛ぶのが好きでハングでもパラでもタンデムでもClass Vでもなんでも飛びます。

とにかくフライト本数と時間は減茶苦茶多いです（飛べる日は毎日飛びます）。昨年1年間のフライトは400本程度。内タンデムは100本程、ハングのフリーフライトは10本、ハングの大会で年間50本、パラのダミーフライト50本、パラフリーフライトが200本弱、

といったところです。

今年54歳になりますが、競技への情熱も若い頃と比べ劣ることなく持ち続けています。国内競技はもちろん、年に一度は海外の大会で世界のトップ選手達と競い合い交流し最新の技術や情報を探求したいと参加しています。

全国に自分が一緒に楽しく飛べる空の仲間が一人でも多くいて欲しい！その思いは強いと自負しています。

私はハングのパイロットというイメージが強いかもしれません、パラの方が圧倒的に多く飛んでいます。

ハングだけでもパラだけでも両方飛びたい人もClass IとV両方飛びたい人も、判らない事や疑問があれば何でも聞いてください。

分からぬ事は分かりません！私のわかる事や経験は全てお話しします。

日本の空を楽しく、安全に、皆さんと盛り上げていきましょう。

事ではないでしょうか？

四十数年前、日本の何処かで「ハンググライダーで初飛行！」のニュースを観て聞いて、「自分の夢も実現できるかも？」……

でも何処に行ったら見る事が、教えて貰う事ができるの？……

偶然スキー場で見かけた時、直ぐに仲入りしたのが42年前の事でした。

自分的には、少しでも多く飛ぶ機会を持ちたい思いから、数々ある空を飛ぶ手段の内でも、身近な可能な範囲で色々な方法にチャレンジしています。

ハング・パラ・モーター付き・マイクロライト・水上マイクロ・パラトライク……、飛ぶ空域は広がり、それに特徴があり、飛ぶ夢の範囲が拡大していきます。

飛んだ事もなく色々評価するのは嫌いな性格で、実際に飛んでみて、それぞの特徴を体験し、それが他の飛行手段や指導活動の参考になればとの思いで、年齢的にも少し欲張りなフライト活動を続けております。

これからも、何処かに必ず居る、空を飛ぶ夢を抱えている方々のために、身近なアドバイザーになれればとの思いで、インストラクター活動を続けています。



古川正司（青森県）

空を自由に飛ぶ夢への憧れ！

それは、人間誰でもが一度は夢見る

フライトルール・マナーを守る

JHF補助動力委員会 委員長 須藤 彰

●フライト準備：自分・機体・天候・装備は万全か？

- 常にフライトに集中できるよう心身ともに健全であること。寝不足、二日酔い、体調不良なら飛行を中止する。
- 機体・ユニットは整備が万全であること。アフターメンテナンスを欠かさず100%の性能保持を心がける。
- 天候の変化に最大の注意を払うこと。感覚を鋭くし、少しの風の異常でも即座にフライトを中止する。決して冒険をしてはならない。
- 必要な装備が万全であること。ヘルメット・緊急用パラシュート・無線機・浮力体等。

●基本フライトルール

フライトルールはローカルルールが

優先しますが、補助動力フライトの原則に立ち返り、また騒音解消のために、以下の基本ルールを提唱します（管理エリアの限られた場所においてエリアルールに従い練習する場合を除く）。

1. ローパスは全面的に禁止する

いつ、いかなる場所においても、超低空パワー飛行を行ってはならない。

2. 低高度スラロームは全面的に禁止する

危険回避を除き、地上高100m以下の低空でパワースラローム飛行を行ってはならない。

3. 単独飛行は全面的に禁止する

地上にサポーターを一人も置かず、単独飛行を行ってはならない。フライヤーは常に複数の地上サポーターから



坂本三津也（京都府）

昨今、JHFのハンググライダー愛好者は毎年200～の減少が続き、一向に下げ止まっておりません！

同時に私も含め教員の高齢化が進み、新しい教員としてのなり手もいらない状況に突き込んでおります！

特にハンググライダーの教員はパラグライダーの教員に比べて人数が少なく、ハンググライダーの安全普及指導に支障が出てきているのが現実です！ 実際に大半のハングスクールは、スクール賠償保険も無い中、若いスタッフ、教員の育成、確保は大変難しい状況になっております。

しかもハンググライダー教員検定員についても、前回の研修会に比べ今回は手を挙げる方も半減しております。私はこのようなハンググライダーの現状を踏まえ、これから検定会、更新講習会等の場を通じ、今以上の安全を確保した指導方法を構築できるよう、現役のハンググライダーの方々と携わって行きたいと思います。

以下、私のプロフィールです。

京都エアースポーツ代表、京都ハンググライダークラブ代表。京都府フライヤー連盟代表。ハンググライダー歴：18歳から始め今年で41年になります。
ハングスクール歴：38年目



西本一弘（熊本県）

ハンググライダーのスクールに入ったのは1978年でした。それから、39年の歳月が経ちました。当時はリッジソアリングが主でサーマルの存在がフライヤー仲間の間で話題になっていましたが、教えてくれる人が居らず手探り状態でフライトしていました。

1980年代にハンググライダーの教員になり、以来ハンググライダースクール＆ショップを営み、独学でハンググライダーを作り、またハーネスの加工も行っていました。その後ハンググライダーメーカーより誘いがありハンググライダーの機体開発等を経験。今は九州の熊本に帰り、ハンググライダースクールを行いながらハンググライダー修理・パラグライダー修理等をしています。

現在の練習生は、教本もあり、教員から手取り足取り教えてもらいます。それと、一番違うのは機体です。現在の機体は軽くて扱いやすいものが多くて、早く一人前になって大空に飛び立って行ける環境です。私が飛び始めた頃から格段に進歩したハンググライダーの魅力を今後も伝えていきたいと思います。

ハンググライダーの教員・助教員をこれから受験する人が少なく教員検定の機会はある

まりないかもしれません、エリアで会ったら、何でも私が知っている限りの事はお答えしますので、遠慮なく声をかけてください。



平木啓子（静岡県）

今、日本はアウトドアブームで、タンデムやふわっと体験など観光でパラグライダーにチャレンジする人が、毎年増えています。しかしその一方で、本格的にスカイスポーツを始める人は増えていないのが現状です。

パラグライダーの魅力を多くの人に伝え、パイロットを目指す人を増やし、安全な環境の下で成長させていくことに少しでも貢献できたらと思い、検定員に応募しました。

今の自分は、教員としてまだまだ学ぶべきことが多く、成長していく必要があります。そんな私ですが、強みは長く競技を続け、さまざまな国のパイロットとの交流で培った技術や知識を持っています。私にしか伝えられないものもあるのではないかと思い、それがフライヤーの安全に繋がれば幸いです。今期から検定員として頑張りますので、どうぞよろしくお願ひします。

●フライトエリア・空域ルール

空域ルールは、各地のエアリアルルールが優先しますが、管理エリア外の空域や法的に制限のある空域においては、下記を基本ルールとして提唱します。

1. 航空法の厳守

航空法上定められた飛行制限空域は、厳守しなければならない。

2. 人家上空の飛行は禁止する

人家の上空をパワー飛行してはならない。ただし地上高150m以上で速やかに通過する場合はその限りではない。

3. 公共道路上空の飛行は禁止する

自動車道路、鉄道、農道等の上空を道路に並行して飛行してはならない。道路上空は十分な高度を保ち速やかに横断する場合を除き、原則的に飛行しないように心がける。

4. 海岸線でのフライト制限

海水浴シーズンの海水浴場付近のフ

ライトは、管理エリア以外では絶対に行わない。海岸線エリアではライフジャケットを必ず着用する。海岸より海側を飛行する場合は海風（海から陸への風）時に限り、岸までの距離の2倍以上の高度を保つよう心がける。

5. 河川敷でのフライト制限

川遊びシーズンの河川でのフライトは、管理エリア以外では絶対に行ってはならない。河川敷エリアではライフジャケットを必ず装着する。河川敷エリアは海岸線エリアより人が近いため、各地エリアのローカルルールに次の項目を加えることを提唱する。

(1) フライト活動をする曜日の制約

(2) フライト時間帯の制約

(3) 同時フライトする機体数の制約

マナーを無視したフライヤーを見たときは、積極的に声掛けをし、注意を促してください。

目視できる空域を飛行しなければならない。2点間飛行をする場合も同様。

4. ピッチング・ローリングの制限

補助動力を使用したピッチング・ローリングの練習を地上高100m以下で行ってはならない。

5. むやみに騒音の出る飛行の制限

危険回避の場合を除き、フルパワーによる360度旋回上昇や、ランディング時における再パワー処理など、騒音公害になるような飛行を行ってはならない。また、地上でも、暖気運転以外に騒音をまき散らすような、無意味なエンジン稼働を慎む。

6. JHF補助動力フライヤーとしての飛行

JHF補助動力フライヤーは、自覚を持ってJHFのルールとモラルに従ってフライト活動を行わなければならぬ。

2018年アジア大会に向けて テストイベントの内容が決定！

2018年8月18日～9月2日にインドネシアで開催される4年に一度の国際総合競技大会、「アジア大会」(*)に向けて、テストイベントの内容が次のように決定されました。

イベント名称：Paragliding Asian Cup 2017 (Test Event for Asian Games 2018)

日程：2017年8月11日～14日

場所：Puncak (インドネシア)

種目：パラグライダー・クロスカントリー (***)

詳細：<http://www.pgag2018.com/>

*前号の記事中では「アジア競技大会」としましたが、今後は「アジア大会」とします。

**テストイベントでは、パラグライダーアキュラシー種目は開催されません。また、FAIのカテゴリー2イベントとして公認されており、参加資格は

FAIスポーツティングコード、セクション7に則ることになります。

2018年のアジア大会では、パラグライディングが正式競技種目に決定しており、全部で6種目の開催が発表されていますが、上記のテストイベントを実施した後に、開催6種目が決定されます。

アジア大会はアジアオリンピック評議会（OCA：Olympic Council of Asia）が主催するオリンピック関連の国際競技会です。各団体との関係は下の図の通りです。

OCAはアジアの国と地域のオリンピック委員会（NOC：National Olympic Committee）が加盟している組織です。

FAIは2017年3月、既に東アジアと西アジアそれぞれでアジア地域の航空スポーツ統括を目的に組織されていた

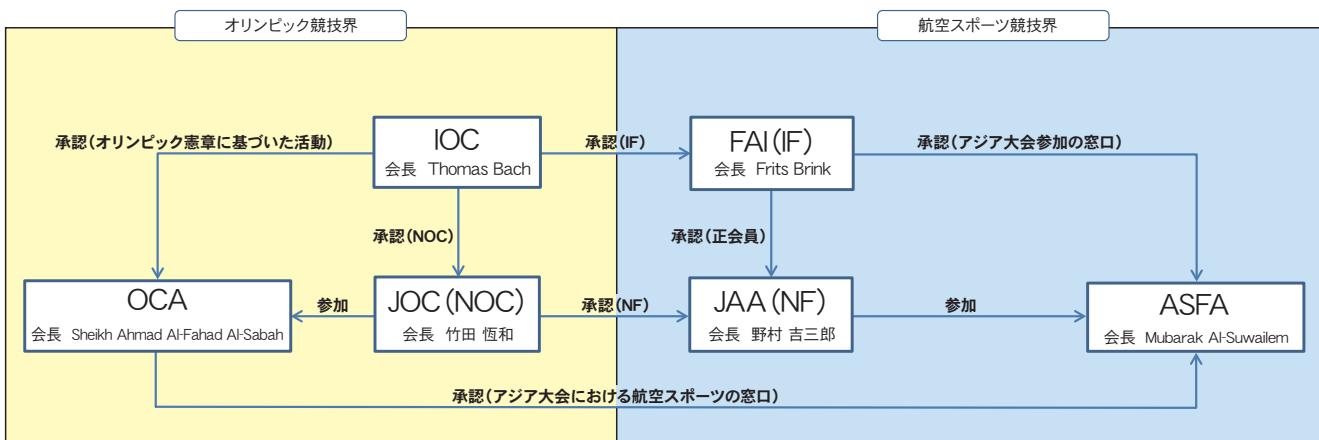
二つの団体を一つにまとめ、ASFA (Air Sports Federation in Asia) を設立し、当該団体を2018年のアジア大会のOCAに対する窓口としました。

2018年アジア大会の開催にあたり、ASFAはOCAの窓口として競技開催をサポートし、また、競技開催のノウハウ等はFAIの国際ハンググライディング・パラグライディング委員会（CIVL）がサポートすることとなっています。

また、日本ではFAIのActive MemberであるJAAがASFAに参加しており、JHFはJAAから2018年アジア大会の情報等を適時受け取っています。

来年のアジア大会本番への選手派遣については、JOCが日本選手団を結成し派遣します。今後、JAAとJOCとの間で派遣について協議が行われる予定です。

アジアにおけるオリンピックと航空スポーツの団体に関する相関図



IOC 国際オリンピック委員会(International Olympic Committees)

JOC 日本オリンピック委員会(Japan Olympic Committees)

OCA アジアオリンピック評議会(Olympic Council of Asia)

- ・アジアにおける様々なOCA競技大会を統括する唯一の団体。本部はクウェート
- ・会長はMr. Sheikh Ahmad Al-Fahad Al-Sabah(クウェート、ANOC会長と同じ)
- ・開催する競技大会

アジア競技大会(Asian Games)

2018年大会でパラグライダーアキュラシーが実施予定

アジアビーチゲームズ(Asian Beach Games)

2008年パラグライダーアキュラシーが実施された(日本選手参加)

2014年大会にパラグライダーアキュラシーとパラモーターが実施された(日本選手参加)

アジア冬季競技大会(Asian Winter Games)

アジアユースゲームズ(Asian Youth Games)

アジアインドア・マーシャルアーツゲームズ(Asian Indoor and Martial Art Games)

FAI 国際航空連盟(Fédération Aéronautique Internationale : FAI)

- ・IOC承認の航空スポーツ国際競技団体(IF)。本部はスイス
- ・会長はMr. Frits Brink(オランダ、元オランダNOC副会長)

JAA 一般財団法人日本航空協会(Japan Aeromatic Association)

- ・JOC承認の航空スポーツの国内競技団体(NF)。また、国内唯一のFAI正会員(Active Member)。本部は東京港区
- ・会長は野村吉三郎氏(元ANA会長)

ASFA アジアエアスポーツ連盟(Air Sports Federation in Asia)

- ・OCA承認のアジア大会における航空スポーツの窓口。
- ・会長はMubarak Al-Suwailem(サウジアラビア、アジアニア・パラシュート連盟会長)

第9回FAIパラグライディングアキュラシー世界選手権 ツヴェタン、ラウンド平均0.9cmの勝利！

5月5日-14日 アルバニア Vlore 報告：チームリーダー 岡 芳樹

5月4日

昨日現地着。ランディング（以下LD）は南北に長いビーチで西が海だ。テイクオフ（以下TO）はLDからでここ道を約50分登った海拔690m。正面は西。北西～南西にテイクオフでき、5、6機は広げられる。ビーチに出てからはサーマルにあおられることもなく殆ど風が素直なので、基本、高めからの落とし込むスタイルが良いようだ。

今日は9:00過ぎからトレーニングフライトを4本。後発の選手も到着し、日本チームが顔を揃えた。吉田武史、小松理樹、川村眞、伊藤まり子、山口香代、そして私の総勢6人だ。17時からレジストレーション。その後チームリーダーブリーフィング（以下TLB）。

注目されたのはターゲットに1.5m角の圧力センサー（スカイダイビング用）を使用すること。パッドに着地して電光掲示板にスコアが出たとしても、最初に接地した場所がパッド外だった場合には無効になるのだが、判定が難しいため、その混乱を防ぐための装置。パッドに接地する前に1.5m角のセンサー部分に接地すると電光掲示板に17と表示され、先に接地した場所がパッド以外であることを表示するもの。

TLB後ウエルカムディナーに突入。残念ながらビールは自前であった。

5月5日

11:00から街中の広場で開会式。13:30からLDで選手全体ミーティング。風が強くウエイティングの後、公式練習スタート。風は南5～6m/s。サーマルもあり、かなりハードなコンディション。時間が経つにつれ風は安定し始め、絶好のアキュラシーコンディションに。しかし軍用トラックのトラブル（こんなことで大丈夫？と心配になる）で選手の登頂が遅れ、川村選手と私が飛ばずに終わることに。

18:30を過ぎた頃から風は弱くなりオフショアに。ところがだんだん風速が上がり、一気に前に出なくなるほど強風に。空中の山口選手に、絶対に海に出ず、陸で高度処理するよう無線連絡する。全く高度が取れずLDにも近

づけないようになり山裾にアウトラン。幸い10m四方ほどの空き地に何とか降り事なきを得る。不幸なのは、岸まで届かず15mほど沖に海チンした選手。浅瀬で溺れずに済んだのは不幸中の幸いか。大会委員長に聞くと、この10年で初めての出来事であるとのこと。

5月6日

今日から競技だ。8:30、最初の80人がTOへ。残りの選手は徒歩でLDへ。9:50、ダミーも出さずいきなり第1ラウンド開始。快晴。西2～3m/s。割と狙い易いコンディションであったが、11:00過ぎにはサーマルはバンバン、風速は5～6m/sにアップ。14:00頃に少し風速は落ち、順調に進み15:00にはリランチも含めて全員フライト完了。

引き続き第2ラウンド開始。風は南よりに変化。16:20頃、一瞬オフショアの1～2m/sになり、昨日の悪夢が脳裏をよぎるが再び南に戻る。しばらく順調に進み、18:00頃にTOがフォローになって、本日終了。

5月7日

7:30からTLB。晴れ。南よりの風が強い。11:30に全員ホテルを出発しLDへ移動。TOは3～5m/sで南よりのこと。選手40人がTOへ。しかしまだ風が強くウエイティング。15:00近くにダミーを出し問題無しとなり、昨日のリランチの小松選手からスタート。

順調に進み、17:00に第3ラウンドスタート。LDは西4m/s。晴れ。37番あたりが飛んだところでTOに雲がかかりウエイティング。これで終了かと思ったが、18:55に再開。風は西より1m/s。サーマルも無く非常に安定した絶好のコンディション。ほぼ全員パッドでDC（ターゲット中心）も数人出るほどに。55番までで本日終了。このコンディションで飛びたがった古田選手は明日のトップバッターになる。

5月8日

7:00頃から雨。11:00頃には晴れ間が出る予報。雲底が低くメインTOが

雲中の時に飛べそうな場所があり、そこをサブTOとすることに。115番までサブTOに上がる。11:10競技開始。晴れ。LDは西の1～2m/s。TOは西3～4m/s。雲は多い。サーマルは出ているが、LD場内に入ってから特に揺らされることはない。小松60cm、伊藤3cm、古田6cm、山口16cm（初パッド）、川村40cm、岡14cm。国別は14位変わらず。3ラウンド終了時で2人（アントンとインドネシアのベルマティ）がゼロ点。

13:50第4ラウンドスタート。快晴。LDは西北西の3m/s。順調な進行で17:30に第5ラウンドスタート。LDは快晴。南西の0.5～1m/s。19:10LDはほぼ無風状態に。60番まで飛んで終了。アントンはまたしてもDC。4連続DC！で世界記録となる。

5月9日・10日

風向・風速は悪くないが、時折TOが雲中になるため、100mほど下がった場所にTOを移し、この先はそこを使用することに。一時風が強くなりクローズすることもあったが、順調にラウンドが進み第8ラウンドまで成立した。

明日はレストデイだ。

5月12日

強風が朝まで残り本日はキャンセル。恐れていた通り第9ラウンドが最終ラウンドとなる。泣いても笑ってもあと残すところ1ラウンド。何とかDCスコアを出したいものだ。

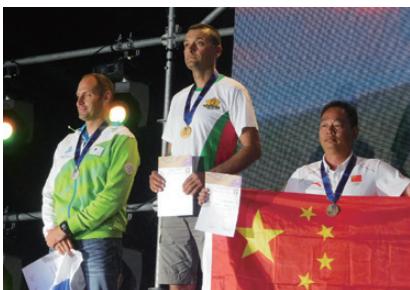
5月13日

7:00にTLB。何とか飛べそうな雰囲気で、スタートオーダー40番まではすぐにTOへ。本日は予定通り1ラウンドフルに行って大会終了となる。

9:15最終ラウンドがリバースオーダーでスタート。LDは西の0.5m/s。晴れ。結構1000点が多い。ほぼ無風で伸びると思い低めに入りショートするパターン。13:00過ぎまでLDの風は南から西の0.5～1m/sと弱く、これまでと異なるコンディションに泣かされた選手が少なくない。



国歌演奏とともに開会式で紹介される日本チーム。



総合トップ3。

13:30第9ラウンド終了。8ラウンドまでで首位のツヴェタン（ブルガリア）が3cm。2位だったハイピンが1cm、3位だったマチアス・スルーガがDC。世界チャンピオンはツヴェタンに決まったが、2位が同率2名に。タイブレークのフライトが行われることになる。チームスコアでもインドネシアとチェコが第3位同点となり、こちらもタイブレークのフライトに。

まず、個人戦で中国のハイピンがテイクオフ。続いてマチアス。LDの風はオフショアの3~4m/sから弱まり、南西から北西の2m/sと不安定になる。ちょうどその時にLDに入ってきたハイピンはあろうとか461cmのショート。それを上空で見ていたマチアスはやつたー！と大きく叫んでいたはずである。ゆったりと決めたスコアは3cm。これでマチアスの2位が決まった。一方インドネシアとチェコ。お互い5cm以下で少しも引かない感じ。しかし女子が活躍したチェコが一步勝り3位に。チームの点差はたったの2cm。何とも劇的な締めくくりとなった。

閉会式は19:30過ぎからアルバニア首相、FAI会長も列席し行われた。

成績

[個人]

1位ツヴェタン・ツオロフ（ブルガリア）、
2位マチアス・スルーガ（スロベニア）、
3位ハイピン・チェン（中国）、岡（51位）、
川村（90位）、小松（103位）、古田（121位）、山口（124位）、伊藤（125位）

[女子]



眼下に紺碧のアドリア海。美しい眺望に目を奪われる。



女子トップ3。

1位ヌナバット・プション（タイ）、
2位マルケッタ・トマスシュコバ（チェコ）、
3位リカ・ウイジャヤンティ（インドネシア）、
山口（21位）、伊藤（22位）
[国別]
1位中国、2位セルビア、3位チェコ、
日本（12位）

選手から

●岡 芳樹

改めて世界のレベルの高さを実感させられた。チャンピオンになったツヴェタンのラウンド平均は何と0.9cm！海風で安定していたとはいえこれは驚異的だ。片や私のラウンド平均は7.5cm。私がいつも練習している朝霧は風が安定していることは殆どなく、サーマルコンディションが常態なので、最後の最後の詰めのコントロールの練習にはならないことが、結果として表れたことも少しあると思う。

また国別7位までのラウンド平均スコアは9cm。と言うことは4人が2cm程度におさめなければならない。日本チームはラウンド平均62cm。4人の平均16cmと何とかパッドスコア。世界の強豪を相手にするには、何か抜本的な取り組みが必要であることを痛感した。いかに選手層を厚くするかが課題だ。

●古田武史

世界選手権は今回で3回目。7ラウンド終了時では147選手中47位でしたが、終盤でミスをし順位を落としてしまいました。技術面の課題以外にもメ



注目の圧力センサー導入でジャッジの精度もアップ。



国別では中国チームが1位に。

ンタル面強化の必要性を感じました。

最高の舞台で、最高のコンディションで、最高の選手と戦えたのは非常に大きな経験になりました。「世界」との差は大きいですが、この経験を今後の大会に繋げていきたいと思います。

前回はゲスト参加を含めて18か国121人。今回は28か国から200人超のエントリーがあり、定員が増員されましたがセレクションが行われ、国別最大7人から1人減の6人の参加となってしまいました。アキュラシー競技の参加国は増加しており、個人のレベルアップと並行して国別のランキングアップにも取り組んで行こうと思います。

●小松理樹

今回、個人20位以内、チーム戦では表彰台に上がる事が目標だったが、残念な結果に終わった。海風のエリアで風の強弱や風向の変化はあるものの、基本的には一定条件で安定しており、個人の技術が顕著にスコアに出る環境であった。以前からアプローチのフォームを変えなくてはと感じていながらなかなか身につけられず、最後の狙いを安定して行えなかったのがそのままスコアに出てしまったと痛感。目の前で見たトップクラスの技を今後の技術向上の参考にしたい。しかし、トップクラスの選手でも思わずところで大きなミスをして展開が大きく変わる。これだからアキュラシーは面白い！

ここで見て・触れて感じたことは今後のアキュリート人生に大きく刺激を受けた。技術を磨き、2年後こそは個

人・チーム戦とも表彰台を目指したい。

●川村 真

今回も世界の技術には驚かされました。パッドを踏む、一桁を出すことではなく、いかにDCを踏むかということに勝負が移っていました。DCスコアを出せない自分は何なのか。どうやったら近づけるのだろう。またしても課題がたくさんできました。とは言えいつもの大きなミスもなく、無難な成績でした。数年前なら最高と言えたかもしれません。それだけに、成長していない自分、世界との差を感じました。来年はアジアゲームズ等が開催されます。気持ちを新たに1cmでも近く、すべてが一桁の安定した成績を出せるように練習したいと思います。

今回の会場は、アキュラシー競技としては高度差があり過ぎましたが、すばらしい景色の中リラックスしてフ

イトでき、日本にもこのようなエリアがあったら最高と思いました。

●伊藤まり子

この度はとても貴重な体験ができ、また初めて見たタイブレークにとても感動しました。海風の安定したエリアでは実力がそのまま結果に現れ、自分が練習不足で、新しいグライダーとまだ一体化していない事も実感しました。

個人成績は振るわなくても、チームへの貢献度は私にとって過去最高だったと思えます。9ラウンド中、失敗が3回もありましたが、一桁が5回あり、チーム戦に計上された成績は6回ありました。自信を持ってロックオンできた時にはしっかりと集中して狙え、迷いが生じたり、集中していない時には何もできない事を実感したので、今後の練習でどんな風でも自信を持ってロックオンできるようにしたいと思います。

今回の経験を活かして、もっと安定した成績が出せるようにがんばります。

●山口香代

初めての世界選手権で勝手が分からず不安でしたが、チームリーダーの岡さんを始め、仲間の選手にいろいろと教えてもらひながら参加できました。

日本のレベルを上回る海外のトップ選手の競技を目の当たりにし、とても良い刺激を受けました。おかげで自分のベスト記録を更新でき、初参加で微力ながらチーム貢献できたラウンドがあったことも嬉しかったです。

大会期間中、SNSなどで大会の様子を知らせることで、自分の周囲からも競技としてのアキュラシーの面白さを知ったという声をもらうことができました。この貴重な経験を今後の自分の技術向上、アキュラシー競技のPRに繋げていきたいと思います。

学連ニュース

7月に入り風も落ち着いてきて、PG新入生の初飛びの話もちらほら聞こえてくる季節になりました。

はじめまして。日本学生フライヤー連盟（JSFF）の理事長になりました、堀聰史（日本大学4年、足尾PG）と申します。昨年は関東地区の理事をしておりました。自分自身PGの技能はまだまだですが、HG・PGの普及に少しでも貢献できたらと考えております。

さて、毎年恒例、4月の新歓期が終わりました。足尾に限った話をすると、今期は昨年度よりは減ったものの、約60人が入部し、練習に励んでいます。5月21日には今期初飛び第一号も出ましたので、仲間同士刺激しあって切磋琢磨してくれる代と期待したいところです。

足尾の新歓は毎年報告しておりますので、今回は別視点の報告をしてみようと思います。新歓及び卒業後について、全地区全学生対象のアンケートを実施しました。回答数266。そのうちHG約6割、PG約4割でした。その結果を私なりに分析しました。

新歓については、入部理由で「大学に入る前から知っていた」と答えた人

がどの学年でも約2割を占めます。そして、ビラ配りなどの勧誘活動をきっかけにHG・PGを知った人はどの学年でも約6割を占めています。このことから、学生の中でも空を飛ぶことは魅力であり、新入生が「HG・PGを知る機会」に恵まれれば、学生フライヤーの増加は期待できると考えています。

続いて卒業後ですが、こちらは学年で大きく差がでています。1年生は「楽しいから続けたい」や「まだまだわからない」などが多いですが、上級生になってくると「もっと上手くなりたい」や「進路次第」など、具体的になっていきます。特に、進路次第でホームエリアを離れる事になるならやめるという人が多いです。「仲間が楽しい」から「飛ぶこと自体が楽しい」「もっと上手くなりたい」にシフトしていく

れば、若年フライヤーの増加に繋げられると考え、他エリアへのツアーや大会の支援、OBとの交流等を積極的に実施し、卒業後も続けるフライヤーの増加を推進していきます。

JHF通常総会でも話がありましたが、フライヤー登録人数が8,000人を割ると考えられる今、毎年全国合わせて約150人が加入している現状をなんとしても生かしていく必要があります。新歓ももっと活発にしていくとともに、卒業後も継続してくれるフライヤーの増加を図っていくことを今期の目標としてまいります。そのためにはフライヤーの皆様の協力が欠かせません。お金、進路、技術面など、困っている学生がいましたら是非自慢話の1つ2つをお願いしたいところです。



新歓活動のひとつ、ティクオフ見学。



合同説明会に多くの新入生が参加。（ドローンで撮影）

JHFからのお知らせ

■補助動力副読本を頒布しています

「JHFパラグライディング教本副読本[動力付きパラグライダー（補助動力技能証／MPG技能証課程）]」を頒布中。

動力を使用したパラグライディングの練習のポイントと最低限の基礎知識を載せており、パラグライディング教本とともに繰り返し読んで、安全で楽しいフライト活動の助けにしていただくものです。初心者の方はもちろん、すでに技能証をお持ちの方も、ぜひお読みください。

価格・申込方法：

頒布価格1,000円（送料別）。JHF登録スクールまたはJHF事務局にご注文ください。注文書はJHFウェブサイト「書籍情報」からダウンロードできます。

■PG教本基礎技術DVDを頒布中です

基礎技術DVD「JHFパラグライディング教本基礎技術」、続いて第2弾「テイクオフとランディング」を頒布しています。

「JHFパラグライディング教本基礎技術」には、JHF教本のA・B級からクロスカントリーまで各課程を修了するために求められる基本的なフライト技術について、ベテラン教員による模範演技を収録しています。実際の飛行での操作を、複数の方向から近接撮影したものが2画面で表示され、各操作で

の動きをはっきりと見ることができます。

第2弾は、フライトの基本中の基本であるテイクオフとランディングを収録しており、フロントライズアップの基本から場周アプローチによるランディングまで、各操作のポイントをつかみやすい内容です。

価格・申込方法：

頒布価格それぞれ1枚1,500円（送料込）で、お申し込み10枚毎に2枚追加してお送りします。入手ご希望の方は、最寄りのスクールでご購入いただけ、JHFウェブサイトにて注文書をダウンロードのうえお手続きください。

■JHF備品を貸し出しています

JHFでは備品の貸し出しをしています。ご希望の方は「JHFウェブサイト」→「JHFのご案内」→「無線機その他備品貸出」より貸出依頼書をダウンロードし、必要事項を記入・入力して、FAXかメールでお申し込みください。

■住所を変更したらお知らせください

住所を変更された方は、お手数ですが、下記項目をメール、FAX、郵便などでJHF事務局にご連絡ください。

フライヤー会員No./お名前/変更後のご住所/連絡先電話番号/メールアドレス

会費を銀行口座振替・コンビニ送金される場合、銀行等から新住所の連絡はありません。

カレンダー写真を募集します

2018年JHFカレンダーの画材として使用するために、ハンググライダー、パラグライダーを中心とした季節感のある楽しい写真を募集します。

応募していただいた作品の中から13作品を採用させていただき、カレンダーの表紙と1月から12月の各月に掲載する予定です。

応募締切は8月31日（木）。詳細はJHFウェブサイトをご覧ください。

このカレンダーは一般に販売するほか、新聞社や他のスポーツ団体、行政機関等にも配布しています。ぜひご応募ください。皆さんのご協力をお願いします。

■お問い合わせはJHF事務局へ

公益社団法人日本ハング・パラグライディング連盟

〒114-0015 東京都北区中里1-1-1-301

TEL.03-5834-2889 FAX.03-5834-2089

E-mail : info@jhf.hangpara.or.jp

<http://jhf.hangpara.or.jp/>

*このJHFレポートには賛助会員からのお知らせを同封しています。また、東京都、神奈川県、愛媛県在住の方には、各県連盟からのお知らせも同封しています。

上空利用可能デジタル無線機使用のお薦め

平成34年にアナログ式簡易無線機の運用が終了することに備えて、JHFではハンググライダーやパラグライダーのフライト中に使用する無線機として「簡易無線登録局」対応のデジタル無線機の使用を推奨しています。

上空利用5チャンネルを搭載、デジタル方式の音声なので、混信もなくクリヤーで聞き取りやすくなっています。STANDARD製のVX-291SとVXD450SにICOM製IC-DPR30、さらにSTANDARD製VXD1Sが加わりました。

JHF賛助会員（JHFウェブサイトにバナーを掲載）からも購入すること

とができます。

なお、JHFではSTANDARD製デジタル無線機を14台保有し、登録会員に貸し出しをしています。ご希望の方は上記の「JHF備品を貸し出しています」に沿ってお申し込みください。

すでにデジタル無線機をお持ちの方は、無線機の登録手続きを済ませ利用料を納めているか、ご確認ください。登録をしないまま無線機を運用すると、不法無線局として処罰の対象になります（1年以下の懲役または100万円以下の罰金）。うっかり忘れていたということのないようお願いします。

被災地復興 応援プロジェクト 「空はひとつ」

東日本大震災被災地への義援金を引き続き募っています。

◇義援金振込先

三井東京UFJ銀行（銀行コード0005）

菫鴨支店（店番号770）

口座番号 普通 0017991

口座名義 公益社団法人日本ハング・パラグライディング連盟

JHFレポート218号

発行日：2017年（平成29年）7月20日

発 行：公益社団法人 日本ハング・パラグライディング連盟（JHF）

編 集：JHF事務局

印 刷：株式会社サンライズ